令和二年度　学校文集【令和二年十二月】

ひらやま　その七

※今回は、「宮崎日日新聞」「夕刊ディリー」掲載作品と、「青の国若山牧水短歌大賞」の作品です。続きは来月掲載します。

「勉強で恩返しを」

六年　佐藤穂乃実

私は、4年前、近所のおばちゃんが亡くなりました。悲しくてたまりませんでした。その理由を二つ言います。

一つ目は、パンや、ラスクなどを毎日のようにくれたからです。そのおばちゃんは「ピーターパン」というパン屋さんで働いていました。いつもピーターパンに行くと、「UFO」というパンや、イチゴラスク、チョコラスクなどといつもおまけしてくれたからです。あの味は、今も残っています。

二つ目は、私が2年生のとき、おばちゃんに手紙を書きました。その内容は、いつもおいしいプリンをありがとう。今度いっしょに作ろうね。と書きました。でも、それを書いた3日後くらいになってしまったからです。3日前まで元気だったのにという思いと、プリンのお返しができなかったという思いでした。私は、今、とてもおばちゃんに会いたいです。恩返しができなかったので、習い事や、勉強で恩返ししたいです。

「アレルギー検査」

六年　甲斐愛莉

アレルギー検査のため病院に行きました。病院に着くとまず、体温測定をして中に入り、待合室で名前を呼ばれるのを待ちました。診察室の中で先生とアレルギーのことを話しました。私は、卵、じゃがいも、カニがアレルギーがあるけど病院の先生から許可をもらっているので食べています。

アレルギー検査はベッドに寝て看護師さんから血を取ってもらいました。血を取る時にチクッとして、とても痛かったけど看護師さんが優しく声をかけてくれたので頑張れました。私は毎年、こんな検査を1回受けています。でも、なかなか治ってません。アレルギーの食べ物を食べると舌がすごくかゆくなって止まりません。だから、カニや卵、じゃがいもの料理は食べていません。

今度の検査の結果が少しでも良くなっていたらいいなと思います。大人になってアレルギーが治って、何でも食べられたらいいなと思います。

「ごんぎつねを読んで」

四年　松浦太陽

ぼくは、ごんぎつねを読んで悲しいことが二つありました。

一つ目は、兵十のおっかあが亡くなったことです。おっかあは、「うなぎが食べたい」と言って兵十がとったけど、ごんが川へ投げてしまいました。ぼくは、「なんであんないたずらができるんだ」と思いました。それでおっかあは、亡くなりました。うなぎをたべてたらおっかあは長生きしてたかもしれません。

二つ目は、ごんが火縄じゅうでうたれたことです。兵十は、「うなぎをとったあのきつねだ」と思ったと思います。毎日毎日、くりや松たけを持って行ってたのに、うたれてしまったのは、ぼくは、悲しいです。いわし屋に兵十がなぐられてしげってたときごんは、「やってしまった」と思ってくりや松たけをあげて、ごんのはおれって分かったと思ったと思います。ごんは「これがつぐないだろ」と思ったすけをしずらがあんなに好きだったごんが、最後にうたれたのは、本当に悲しいです。

さらさらと音が聞こえるすすきかな　三年　渋谷蓮音

若山牧水短歌大賞　佳作

なつやすみうきわですいすいゆらゆら
なみがざぶんとわたしをはこぶ　一年　川畑春花

妹と兄弟ゲンカはでにしてばあちゃんとめるがはんこうするぼく　六年　喜屋武頼仁